

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野南小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> ・獲得した知識・技能の活用に見られる。 ・国語において、主語や述語の読み取りに課題が見られる。 <指導上の課題> ・児童自身が学習に対し、主体的に取り組むことができるように、より探究的に課題を解決し、獲得した知識・技能を活用しているような学習を展開していく必要がある。	・児童が学習に主体的に取り組むことができるようにするため、魅力ある学習課題を設定する。【毎時間】 ・既有知識や経験と獲得した知識・技能を関連付けながら理解を伴った学習を展開する。【毎時間】 ・授業の最後に、目的や内容を焦点化し、学習の振り返りを行う。【毎時間】 ・児童が文章を読み取る場面では、主語と述語の関係を意識して読み取れるようにするとともに、書く活動の際にも、主語を児童に意識させていく。【通年】
思考・判断・表現	<学習上の課題> ・自分の考えを友達に伝えたり、友達との協働学習を通して、学びを深め合ったりに課題が見られる。 ・算数において、立式した場面を想起することに課題が見られた。 <指導上の課題> ・児童がより、協働的な学びに取り組めるよう、授業の工夫改善を行う必要がある。	・協働的な学習において、ICTを効果的に活用し、児童が自分の考えを表現したいと思えるよう、授業の工夫改善を図る。それにより、学びを深めていけるようにする。【通年】 ・算数において、計算ができるようにするだけでなく、立式の場面では、問題場面を想起し、式の意味を考えることができる学習活動を行う。【通年】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語、算数、理科の3教科すべてにおいて、良好な結果が見られた。国語の漢字の活用について課題が見られた。無回答率は高くないものの、学年別漢字配当表に示されている漢字について、学習後に活用を繰り返していく中で、定着を図る必要がある。算数の図形の性質についての理解について、課題が見られた。図形の性質や意味について正確に理解を深める必要がある。理科の身の回りの金属について、電気を通すか、磁石に引き付けられるかの問題について、課題が見られた。金属は全て、電気を通すということと、鉄のみが磁石に引き付けられるという内容が混同してしまっているため、学習時に整理しながら、それぞれの性質について抑える必要がある。	
思考・判断・表現	国語、算数、理科の3教科すべてにおいて、良好な結果が見られた。国語で、目的に応じて、文章と資料を結び付け必要な情報を見つたり、複数の資料と資料を結びつけ、必要な内容を適切に読み取ることに課題が見られた。学習における資料の活用時に、内容の理解だけにとどまらず、複数の資料を複合的に読み取る学習の経験も必要であると考えられる。算数でも、複数のグラフから、適切なグラフを選択し、読み取ることに課題が見られた。読み取るだけでなく、必要とする資料が何か適切に選択する力を高めていく必要がある。理科では、結果の差異点や共通点から新たな問題を見出し、表現する問題に課題が見られた。課題を自身で見出し、解決していく経験を増やしていくことが求められるといえる。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		
思考・判断・表現		

③	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	A	・児童が学習に主体的に取り組むことができるようにするため、魅力ある学習課題を設定すること、既有知識や経験と獲得した知識・技能を関連付けながら理解を伴った学習を展開することについては概ね実施できている。 ・授業の最後に、目的や内容を焦点化し、学習の振り返りを行うことについては、概ね実施できている。 ・児童が学びの中で主語と述語を意識した活動の実施については、概ね実施できているものの、他と比べ、取組状況に差がある。今後は、効果的な指導を検討することで、より積極的な実施を図っていく。
思考・判断・表現	A	・協働的な学習において、ICTを効果的に活用し、児童が自分の考えを表現したいと思えるよう、授業の工夫改善を図っている。それにより、学びを深めていけるようにすることについては、概ね実施できているものの、児童のICTの活用能力に差があるため、効果的な活用方法について、今後も引き続き工夫改善を図り、よりよい活用について、検討を重ねていく。 ・算数において、計算ができるようにすることのみならず、立式の場面では、問題場面を想起し、式の意味を考えることができる学習活動については、実施できている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)